

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和7年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、鶴見川流域の自然環境と防災などについて学習する区内小学校向け体験型講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営 (14回) (2) 展示会の運営 (1式)		
役割及び責任 分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	① 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(14回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	② 展示会の運営 (1式)	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR 2 広告協賛企業の周知
	③その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 事業の持続的な運営に向けた広告協賛企業の募集 2 上記①②の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する)
実施期間	契約締結日から令和7年3月25日まで		

記入日	令和8 年 5 月 15 日
	・団体等名： 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
	・記入責任者 氏 名： 阿部 裕治 連絡先： 045-546-4337
	・部署名： 港北区区政推進課
	・記入責任者 氏 名： 本所 清一 連絡先： 045-540-2229

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

① 事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	A

② 事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法等をふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	A
3	これまでも振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ○魚とり体験や川の生きもの観察等、鶴見川流域の治水や防災の解説等を内容とする講座を安全に十分配慮しながら実施できる計画づくりができた。 ○講座や延期対応の回数を精査することで、日程の再調整等の負担感を減らし、事業内容に特化した講座を実施することができた。 ○講座に参加した学校へアンケートを実施することで、講座の満足度や理解度、環境保全への思いを確認することができた。 ○展示会の参加校数確保に向け、小学校との講座の事前打合せの段階で展示会の実施について周知した。展示会の参加を必須とし、学校での講座打合せで実施概要について周知することができた。 ○講座参加校からの実施報告書やアンケート内容を共有し、次回計画へ反映させることができた。
【今後改善が必要と思われること】 ○講座実施後の報告書等は、期限内に提出いただけるよう、講座終了時に一声お伝えするか、メールでリマインドをして対応したい。 ○展示会について、従来の地域防災施設鶴見川流域センターとトレッサ横浜のみならず、横浜市港北区民文化センターミズキーホールや港北区役所等、来場者を意識した会場場所の検討を行う。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ○夏場の気温の高い時期の講座では、両者で安全に運営する方法を検討・確認し、健康チェックや気温確認を行い、状況を踏まえて適宜改善を図った。 ○教員アンケートの回答から、過去の講座と比較して内容が洗練され子どもたちにとって大変分かりやすい説明となっていたことが分かる。校内学習への活用が継続されるよう引き続き内容の向上に努める。 ○展示会では、区ウェブサイトやSNS等で発信することで、多くの来場者に興味をもってもらうことができ、事業の案内や鶴見川の自然について知ってもらうことができた。
【今後改善が必要と思われること】 ○対象が3年生の講座では、生きもの観察の際の流域の話が難しかったと意見があったため、理解しやすい内容にとどめるなど工夫した。しかし、一部の学校からは難しかったという意見が見られたため、さらに改善を図りたい。 ○6月中旬～末にかけて講座実施日、延期日を予定していた学校は、気温32℃以上もしくは暑さ指数28℃以上に該当したため、全て室内プログラムでの実施となった。講座の希望が6月に集中する傾向があるため、秋に分散させることも検討したい。 ○令和7年4月に施行された「横浜市子ども・子育て基本条例」の趣旨を踏まえ、本事業を通じて子ども

もたちが直接意見を表明できる機会づくりに継続して取り組む。 ○事業継続性の観点から、地域事業者等に対する本事業の周知や見学等のはたらきかけを強化する。
事業の成果 （協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。） ○将来を担う子どもたちが身近な自然を再発見し、自主的・主体的な環境・防災意識の向上や行動変容につなげることができた。また、展示会の作品からも環境や防災について学習を深めた様子が確認できたとともに、区民のみなさんに当事業や身近な自然、生きものについて知っていただくことができた。 ○講座や展示会を通して、鶴見川流域水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。
自由記入欄 効果的且つ持続的に事業を展開していけるよう、互いに協力し、前向きな姿勢で取り組むことができた。次年度も適宜情報共有を行いながら事業を行い、区民の身近な自然への愛着や環境保全・防災意識の向上につなげていきたい。